

宝を探しに急坂登れば 自然の宝庫 そばの郷
皆で探そう夢と希望 皆で咲かそう幸福の花

宝谷地区集落ビジョン

平成 30 年 7 月

宝谷地区活性化推進委員会

目 次

はじめに	1
1. 集落ビジョンのテーマ	2
2. 宝谷地区の将来像	2
3. 計画の期間	2
4. 現状と課題	2
5. 地区の課題調査（結果）	3
6. 数字で見る宝谷地区	4
7. 地域が誇る資源	5
8. 取組の方向性	8
9. 事業計画（平成 30 年度～平成 34 年度）	10
10. 具体的提案整理表	11
11. 検討の経過	14
12. 地区を取り巻く協働先	15

はじめに

宝谷地区は、鶴岡市櫛引庁舎から東南に6km、標高約270mと櫛引地域では一番の高所に位置する僅か26戸の集落です。

西に母狩山、北に鳥海山を望み、庄内平野を一望できますが、冬には積雪2mにも達する豪雪地帯でもあります。高台にある中山間地のため、水田は平場に比べ小さく、傾斜もきつく圃場条件は決して恵まれているとはいえない地域です。

昭和60年代に入り、米の転作が強化されてきたことから、転作田に「そば」を栽培する農家が増え、その「そば」に着目し地域活性化と農家収入の安定を図るため、平成9年度に宝谷そば生産組合が発足し、平成27年度には農事組合法人宝谷へと移行しています。

また、平成10年度に開設した農業体験学習施設「ふるさとむら宝谷」、平成11年度に併設した「宝谷そば」は、全戸加入のふるさとむら宝谷運営管理組合が管理運営に努め、農山村の生活と生産の姿が見える地域間交流として、そば打ち体験やそばの提供、自然散策など自然の豊かさに親しむグリーンツーリズムにも取り組んでいます。

しかしながら、年々人口減少や高齢化が進行し、宝谷の最盛期に比べると人口、世帯数ともにほぼ半減しており、今後、さらに高齢化率も上昇していくことが予測されるなど極めて深刻な状況に直面しています。

このまま何もせず、限界集落になるには忍び難いとの思いから、地区住民をあげて、集落地域の再生を目指す新たな取り組みに踏み切ることとしました。

取り組みに当たっては、組織として宝谷地区活性化推進委員会を立上げ、将来に向けた指針「宝谷地区振興ビジョン」の策定を行い、計画に従い推進して行きます。

そして、目標を達成するためのパートナーとして、「地域おこし協力隊」の導入も計画しており、地区住民どうしの共助と都市部からの意欲ある若者の意見や発想の転換など、積極的なアイデアを地域活性化の起爆剤とし宝谷地区の活性化に繋がることを期待しております。

結びになりますが、ワークショップを通じて出された問題・課題やアイデアにつきましては、今後も引き続き検討を重ねながら、やれる事業は積極的に取り組んでいきたいと考えておりますし、このプランを実現するためには、住民一人ひとり、地域組織・団体の参画が欠かせないものであり、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

鶴岡市宝谷地区自治会
会長 森 薫

1. 集落ビジョンのテーマ

宝を探しに急坂登れば 自然の宝庫そばの郷
皆で探そう夢と希望 皆で咲かそう幸福の花

※「宝を探しに」は宝谷を意味し、先人たちが名付けた6ヶ所の宝谷坂名を通り抜けた先には、自然の恵み豊かな宝谷があり、広大なそば畑が広がっています。宝谷はそばを核とした村おこしが目標、全国に向けてそばのブランド化の花を咲かせたいという願いを込めたスローガンです。

2. 宝谷地区の将来像

地区住民のまとまりの良さは宝谷地区の強みです。皆の小さな力を結集し、将来に向けた目標を共有することで、大きな力となります。

中山間地域という立地特性から、寒暖の差が大きく、そばづくりに適している地域として、そばの栽培から製粉・製麺そして加工品の販売へとつなげていき、全国展開を目指します。

そして、地域おこし協力隊など地域外からの支援も得ながら、そばの6次産業化による収益力の向上を図り、安全・安心でいつまでも住み続けられる宝谷地区を実現していきます。

3. 計画の期間

平成30年度～平成34年度

4. 現状と課題

宝谷地区では、中山間地域という条件のもと、全戸加入のふるさとむら宝谷運営管理組合が管理運営する農業体験学習施設「ふるさとむら宝谷」及びそば屋「宝谷そば」を核に、そば打ち体験やそばの提供、自然散策など自然の豊かさに親しむグリーンツーリズムに取り組み、今では県内外から年間約5,000人も人が訪れるまでになっています。

一方で、昭和40年頃には52戸あったが、稲作農業の衰退、農業以外の他産業への従事、そして冬期間の自然環境の厳しさ等から集落を離れていく人が増え、平成29年3月末現在、26世帯96名までに減少し、高齢化率も44.7%までに進んでいます。

これは、楡引地域の中でみても突出して高い数値となっており、5年後には50%を超えると推測されます。加えて、高齢化に伴い冬には除排雪も困難を極め、75歳以上の高齢者のみの世帯には地区民どうしの助け合いにより屋根の雪下ろしを行っているものの、地区住民同士の共助にも限界が見えてきています。

産業面では、転作作物の「そば」に着目して、そば粉の加工品であるプリンやかりんとうなどの商品開発にも取り組んできたものの、商品化までには結びついていない状況です。

また、そばによる賑わいづくりも地区住民による手で担ってきたが、牽引する役員も年々高齢化しており、そば祭りなどのイベントでは、大学生（山形大学農学部）の力も借りな

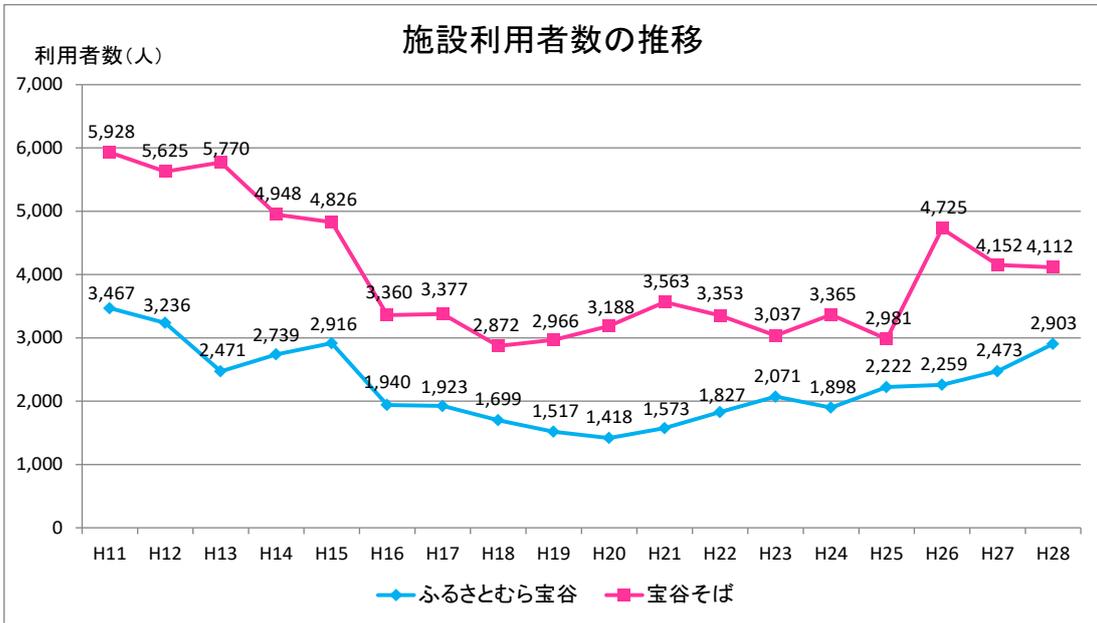
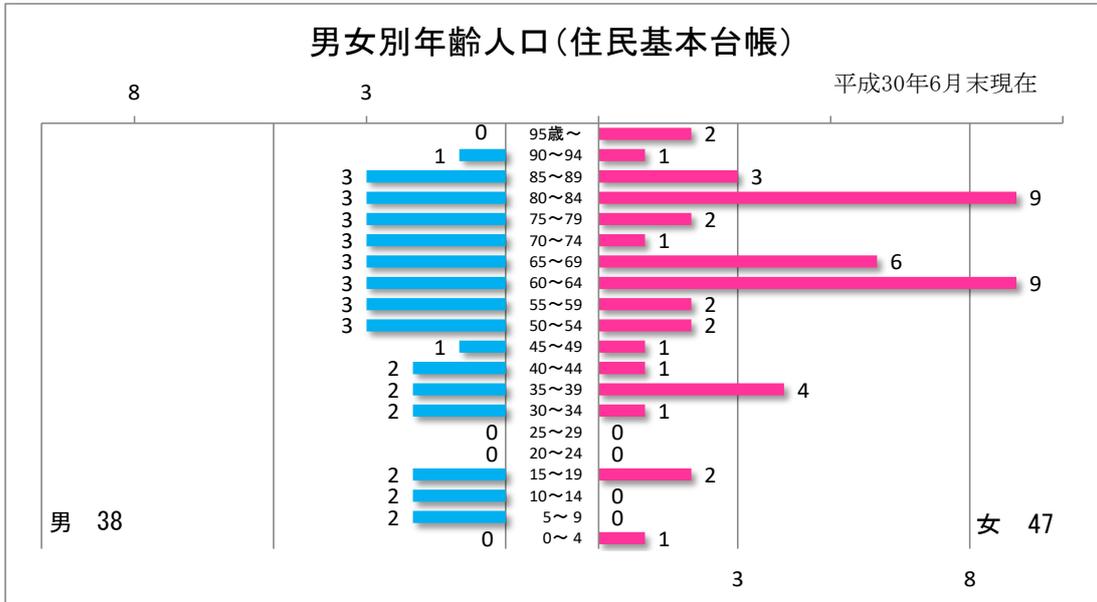
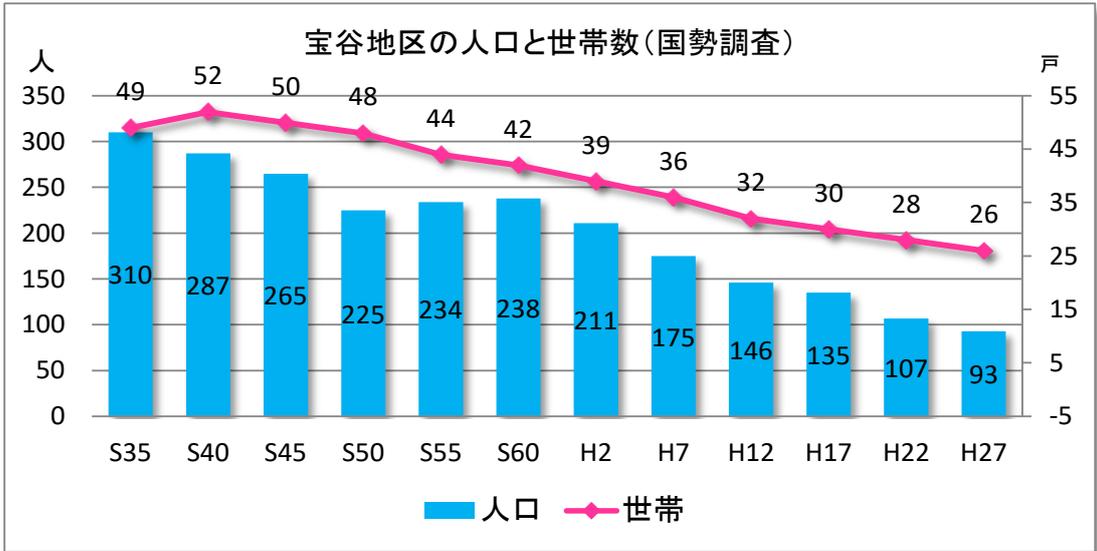
がら運営しており、次の世代に引き継ぐことが課題となっています。

これらの現状を宝谷地区の課題として捉え、「宝谷そば」のブランド化と6次産業化、自然体験の態勢強化、特産物の販路拡大、住み続けられる生活環境づくりを大きな柱として、関連する課題を組み合わせながら行動計画を作成し、実践・実現させていきます。

5. 地区の課題調査（結果）

項目	課題の内容
人口減少・高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・年々人口が減少し・少子高齢化が進むことに対し解決策が見出せない。 ・世代交代、職業により宝谷から移転・転居する戸数が増加し世帯数・人口減少となる
住民の動向	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚する人が少ない、子供の出生数も少ない中、大学や就職によって地元を離れる。 ・結婚によって他県、他村に嫁ぎ後継者がいなくなる。
自治会運営	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯数が減少し地区費の支払額が増加し、個々に負担が大きくなっている。 ・後期高齢者の世帯が増え自治会費の徴収金額も減少し地区負担が圧迫。
ふるさとむら宝谷	<ul style="list-style-type: none"> ・宝谷そば屋従業員の高齢化が進み、労働力低下に繋がりやるべきことが出来ない。 ・積極的な営業活動や売上増加に結び付いていない。 ・来客数減少し、営業利益も減額になっている。 ・マンネリ化傾向にあり、新しい発想が不足している。 ・情報発信や、PR活動が活発に行われてない。
農事組合法人宝谷	<ul style="list-style-type: none"> ・そば生産作業に於いて作業員、労働力不足。 ・6次産業化に更けての力量不足。規模拡大、業績向上に更けての知識不足。
農業経営	<ul style="list-style-type: none"> ・米値段が下がり、生産経費が上昇し農業での生計が維持できない、コストが合わない。 ・後継者が少なく、高齢化により農業経営が難しくなっている。
農地管理	<ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の地形による大規模農業ができないし合理化が難しい。 ・他地区の耕作者が増加し、放棄地が増加し農地に対する関心度が薄れている。
共同作業	<ul style="list-style-type: none"> ・農道、水路、林道などへの共同作業員が高齢化及び人員減少で労働力の負担が大きい。 ・堰掃除、道路の草刈作業の回数・時間が増加になっている。
公共施設等の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設、寺社、墓地などの老朽化による管理等の負担が大きい。 ・神社の鳥居や建造物が古く、傷みや、壊れの修理で費用が増加傾向にある。
伝統文化・公民館活動	<ul style="list-style-type: none"> ・宝谷八木節保存会も子供の不足により活動できずにいる。 ・時代の流れと共に、運営や組織体形が変り行事数も減少し盛り上がり欠ける。 ・運動会や夏祭りの行事も参加人数が減少し関心度も薄くなってきている。 ・若妻会、青年層、老人会の組織が無くなり、公民館活動も少ない。
雪処理	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢の増加に伴い屋根の雪降し作業が重労働化になっている。 ・雪囲い作業や除排雪が負担増になっている。 ・除雪状況により、宝谷坂が負担に思い地区から離れて行く。 ・積雪による経費負担が多くかかる。
鳥獣被害	<ul style="list-style-type: none"> ・熊、猿、カモシカなどの被害が年々増加しており、畑作物に影響している。 ・特に猿の害に対する対処法が難しく被害状況が広範囲に進む。 ・猿の出没する場所が段々民家に近づいて来ているし、猿の数も増加している。
地域活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・固定観念の思想が強く、柔軟な発想が不足している。 ・地区の将来を見据えていない、自分が良ければの思想である。 ・将来に向け夢や希望を持てる地域づくりの組織、人材不足。

6. 数字で見る宝谷地区



7. 宝谷が誇る資源

ふるさとむら宝谷



農業への後継者不足が深刻化するなか、グリーンツーリズムの機運の高まりを受けて、平成10年に農業体験学習等活動施設「ふるさとむら宝谷」がオープン。田植え体験や収穫体験など、自然環境を生かし、農業への理解を深める地域の活性化施設として運営を続けている。平成26年4月からは施設の無償貸付により、ふるさとむら運営管理組合が管理運営を行っている。

宝谷そば



平成11年度に、ふるさとむら宝谷にそば屋「宝谷そば」が併設となり、集落内の高齢者の雇用による生きがいくりと人的交流による地域活性化に寄与している。

そば屋については土日のみの営業にも関わらず、平成28年度の来場者は年間3,700人を超え、売り上げは約450万円となっている。

また、集落全体の維持を図ることを目的に平成27年4月に農事組合法人宝谷が設立された。

宝谷かぶ



山間地特有の焼き畑手法により、他の地域にはない独特の味と歯ごたえが特徴の「宝谷かぶ」は、大正時代までは換金作物として重宝されていたが、戦後になると作付は減少していった。

近年、山形大学農学部の研究等により在来作物が注目されはじめ、平成19年には「宝谷かぶ主の会」が発足するなど、そばと併せて宝谷の特産物として地域住民によって守られ、会が解散した後も小規模ながら栽培が継承されている。

新そばまつり



新蕎麦の収穫時期に合わせて「新そばまつり」を開催している。採れたての新そばを堪能して頂くほか、200mの流し蕎麦を子供や家族などから楽しんでもらっている。

当イベントは、ふるさとむら宝谷設立以来20年間も継続しており、年々参加者も増加し盛り上がりを見せている。

そばのお花見カフェ



そばの豊穰祈願を込めて、満開のそば畑のお花見と音楽を聴きながらそばスイーツで楽しんで頂くイベントで、4年間継続開催している。

そばスイーツは、宝谷産そば粉を使用した様々な試食品を提供しており、広大なそば畑と遠くに庄内平野を眺めながら野外音楽を楽しむ贅沢なひと時となっている。

スポレク祭



スポレク祭（宝谷地区の運動会）は、50年以上もの長きに渡り、地区の親睦と融和を図る行事として継続開催している。

競技の後には、全員でグラウンドにて盛大に反省会を楽しみ地区民皆が懇親を深めている。

ほたるの里



昔はホタルが田んぼなどで飛び交っていた。ホタルが全くなりなくなってしまい忘れかけていたが、10数年前ぐらいから突然とホタルが飛び交うようになり、幻想的なひと時を毎年楽しむことが出来るようになった。その時期になると地区民はもちろんのこと、他所からもわざわざホタル観賞に訪れる人もいる。（源氏螢、平家螢、姫螢の三種が乱舞）

宝谷坂に野立て看板



宝谷坂に昔から坂地名が付いており、伝統の継承を目的に、宝谷子供会が年間行事として、春に看板設置、秋に取外し作業を40年間以上も継続しており、現在の看板は5代目とのこと。

設置場所は6ヶ所あり「よめむげざか」などといった、その当時の状況を表す名前で、宝谷地区がある限りなくしてはならない宝谷坂名である。

農業体験



田植え体験や稲刈り体験を地元の小学生をはじめ、都会からの小学生や大学生などを対象に実施しており、昔ながらの農作業体験を楽しんでもらっている。

中でも横浜市立青木小学校の修学旅については、平成11年から毎年受入れを行っている。

そば打ち体験



自らの手で作った自分だけのそばを食べたい方、子供会などで皆で協力しながら作ったそば、家族やグループなどで楽しみながら作るなど、様々なそば打ち体験を楽しむことができる。

手造りのそば、挽き立て、打ち立て、茹で立てをご賞味頂きたい。

スノーモービル体験



豪雪地帯で真冬の楽しみとして、スノーモービル体験ができる地域であり、遠くから毎週のようにスノーモービル持参で遊びに来るグループもあり。

ふるさとむら宝谷では、初心者でも一人で乗りこなせるように、丁寧に指導を行う体験ツアーも用意している。

宝を探しに急坂登れば 自然の宝庫 そばの郷

1. 「宝谷そば」のブランド化と6次産業化

宝谷の代名詞である「そば」について、新品種のネーミングや地理的表示保護制度への登録申請等を通じてブランド化を図り、魅力あるそば産地を目指します。

また、田舎そばとして根強い人気のある「そば屋」を安定的に継続させるため、そばを原料とした加工品や新メニューの開発など、6次産業化に向けた取り組みを行います。さらには、PR方法の検討などにより来客者数の増加に繋げるとともに、新たな担い手を確保していきます。



○具体的目標

- ・山形そば5号に宝谷にちなんだネーミングを行い、地理的表示保護制度への登録も検討する。
- ・そばを原料とした加工品や新メニューを開発し販売する。
- ・そば屋の来客者数を増やす。H29:3,050人 ⇒ H34:6,000人
- ・そば屋の新たな担い手を2名程度確保する。

2. 宝谷の魅力を伝え、体験してもらえる態勢づくり

現在提供している「そば打ち体験」や「農業体験」に加えて、蛍や夜景、星空、雪などの恵まれた自然体験を組み合わせた新たなプログラムを構築し、宝谷をまるごと満喫できる体験ツアーを実施することにより、宿泊施設等の有効利用を図るとともに、新たな「宝谷ファン」の獲得を目指します。

また、宝谷の夜景や蛍などの映像化や、SNSの活用等を通じて、宝谷の魅力を広く発信していきます。



○具体的目標

- ・新たに自然体験ツアーを企画し誘客を行う。
- ・SNSや映像などを活用して宝谷の魅力を広く発信する。
- ・施設利用者数を増やす。

(ふるさとむら宿泊者)	H29: 81人	⇒	H34: 300人
(そば打ち体験)	H29: 207人	⇒	H34: 500人
(キャンプ場)	H29: 39人	⇒	H34: 150人

皆で探そう **夢と希望** 皆で咲かそう **幸福の花**

3. 特産物の販路拡大とブラッシュアップ

農業所得の向上に向け、JAや産直めぐり等と連携しながら、農産物等の新たな販売ルートを確認し、販路の拡大を図ります。

また、貴重な地域の資源である「宝谷かぶ」の後継者の確保に努め、生産者と作付面積の拡大を図ります。

さらには、笹竹やジビエなど新たな特産物となり得る資源の掘り起しとブラッシュアップを図ります。



○具体的目標

- ・ 農産物等の新たな販路を確認する。
- ・ 宝谷かぶの生産者を増やす。H29：1人 ⇒ H34：5人
- ・ 新たな特産物となり得る資源の掘り起しを行う。（笹竹、ジビエ 等）

4. いきいきと安心して住み続けられる生活環境づくり

いきいきと安心して住み続けられる宝谷を目指して、定期的にいきいきサロンを開催するとともに、高齢者が参加して収入を得られるような仕組みづくりに取り組みます。

また、地区の出身者や若者などで「除雪協力隊」を組織し、雪下ろしボランティア等の活用を図りながら、除雪対策に取り組みます。

さらに、交通の面では、移動手段を持たない高齢者等の足を確保するため、行政等との連携のもと、デマンド交通などの交通対策についても検討を行います。



○具体的目標

- ・ いきいきサロンを開催する（月1回を目標）。
- ・ 高齢者が参加できる仕事を作る。
- ・ 除雪協力隊を組織して雪対策を行う。
- ・ デマンド交通など高齢者の交通対策を講じる。

9. 事業計画（平成30年度～平成34年度）

項目別の活動内容	主な連携先	着手時期				
		H30	H31	H32	H33	H34
1. 「宝谷そば」のブランド化と6次産業化						
そば産地としてブランド化を図る(品種ネーミング、地理的表示保護制度の活用)。	行政	○	○	○	○	○
そばを活用した加工品を開発して販売する(インターネット等で販売)。		○	○	○	○	○
そばと宝谷銘水を使った「そば焼酎」を商品化する。	酒造会社		○	○	○	○
カフェを開店する(そばとフルーツのガレット、銘水コーヒー、宝谷かぶパスタなどを提供)。			○	○	○	○
そばを活用したスイーツを開発する。		○	○	○	○	○
そば屋の利用拡大を図る(平日営業、メニューを増やす、PR手法の検討)。		○	○	○	○	○
子供達からふるさとむら・そば屋の手伝いをしてもらい、お小遣いをあげる。		○	○	○	○	○
そば屋の新たな担い手を確保する(地区外の人を含め担い手を発掘)。		○	○	○	○	○
2. 宝谷の魅力を伝え体験してもらええる態勢づくり						
宝谷を満喫できる自然体験ツアーを行う(蛍、夜景、星空、そば、山菜)。	旅行会社、観光協会	○	○	○	○	○
雪を活用した冬のイベントを開催する(かまくら祭り、スノーモービルの活用など)。	行政		○	○	○	○
鉱山跡へのトレッキング、廃墟ツアーを実施する。	旅行会社、観光協会		○	○	○	○
雪体験ツアーを実施する。	旅行会社、観光協会	○	○	○	○	○
キャンプ場の利用拡大を図る。	行政	○	○	○	○	○
のんびり過ごせるグランピング施設を整備する。	行政		○	○	○	○
宝谷の魅力をSNS等で情報発信する。	ケーブルテレビ インフルエンサー	○	○	○	○	○
夜景や蛍など音楽も入れて映像化する。		○	○	○	○	○
3. 特産物の販路拡大とブラッシュアップ						
農産物等の販路拡大を図る(そば、米、山菜、落ち葉、笹竹など)。	JA、産直あぐり	○	○	○	○	○
宝谷かぶの生産体制を整える(後継者の育成、生産者と作付面積の拡大)。	漬物会社	○	○	○	○	○
熊肉などを「宝谷ジビエ」としてブランド化する。			○	○	○	○
4. いきいきと安心して住み続けられる生活環境づくり						
介護が必要ない宝谷にするため、みんなで「いきいき百歳体操」を行う。		○	○	○	○	○
高齢者が参加できる仕事をつくり収入を得てもらおう。	行政		○	○	○	○
除雪協力隊を出身者や若者などで組織する。		○	○	○	○	○
除雪対策をしっかりと行う(行政の協力、雪おろしボランティアの募集)。	行政	○	○	○	○	○
デマンド交通など高齢者の足を確保する。	行政、タクシー会社	○	○	○	○	○
道路改良(坂道の改善)、環境の整備を行う。	行政		○	○	○	○
救急搬送のためのヘリポートを作る。	行政					○

10. 具体的提案整理表

※ワークショップで提案された内容をまとめました。

分類	項目	着手時期			主体・役割・連携(実践の体制)						
		すぐ	2~4年	5年~	住民 個々	組織の 取組み	地域の 取組み	組織間 連携	他地域 連携	行政と の連携	行政
自然や景観に関する提案	ホテルの拝観料をもらう。	○					◎				
	夜景を利用した夜のイベントを行う。	○						◎			
	蛭、キャンプ場、スノーモービルを活用して来客を増やす。	○						◎			
	そば打ちや山菜、蛭観賞、景色、夜景、星空などを前面に出したツアーを企画する。	○						◎			
	夜景やホテルなど音楽も入れて映像化する。	○						◎			
	キャンプ場の利用拡大を図る。	○							◎		
	自然を地区の売りにする(水、空、星、景観、山菜)。	○								◎	
	猟銃免許を取得してサルとクマを減らす。	○								◎	
	きれいな水を守る。	○								◎	
	そばの作付面積を増やし、赤い色の花が咲くそばを増やす。		○				◎				
	水、山菜、雪遊びをPRして誘客を図る。		○				◎				
	ホテルをもっと増やす。ホテルを観察できる場を整備する。		○				◎				
	サルとクマを活用して誘客を図る。		○				◎				
	ガラス山を再利用する。		○				◎				
	美しい景色の写真コンテストを開催する。		○					◎			
	ふるさとむらで自然体験を提供する(そば打ち、合宿誘致)。		○					◎			
	ホテルの鑑賞イベントを開催する。		○					◎			
	坂を利用したスポーツイベントを開催する。		○					◎			
	ビニールハウスでホテルプラネタリウムを行う(入場料1,000円、おやつ付き)。		○						◎		
	〇〇スポットを整備してPRする。		○						○	◎	
自然とふれあう広場を整備する。		○							◎		
展望台を整備して夜景を地区の売りにする。		○							◎		
景観を整備する。			○				◎				
SNSで”今日の宝谷”を情報発信する(ホテルの動画、星空、そばの花などetc.)。			○				◎				
石の採掘をする。			○						◎		
地域資源活用に関する提案	山菜、きのこを販売する。	○				◎					
	そば屋のメニューを増やす。	○				◎					
	そば屋やキャンプ場をPRL利用拡大を図る。	○					◎				
	宝谷そばや山菜を利用した加工品を作り販売する(直売所、インターネット)。	○						◎			
	そば、農産物のブランド化を図る。	○						◎		○	
	農作物(米、山菜、そば)の販路拡大を図る。	○						◎			
	山菜、米、そばの加工食品、落葉、笹竹を都会の料亭などに販売する。	○						◎			
	宝谷かぶの畑を確保して、きちんと生産する	○						◎			
そば屋の営業日を増やす(土日以外)。	○						◎				

分類	項目	着手時期			主体・役割・連携(実践の体制)						
		すぐ	2~4年	5年~	住民 個々	組織の 取組み	地域の 取組み	組織間 連携	他地域 連携	行政と の連携	行政
地域資源 活用に 関する 提案	スイーツなどそばを活用したメニューを開発する。	○						◎			
	ワンポイントを考え、集中的に宣伝する。	○						◎			
	アクセスの悪さをあえてPRして、そば屋の誘客を図る。	○							◎		
	そば産地としてのブランド化を図る(ex ネーミング、地理的表示保護制度の活用)。	○								◎	
	山菜と米をもっと情報発信する。	○								◎	
	宝谷そばの販路拡大の為の方策を考える(パンフレット、チラシ、新聞広告etc.)。	○								◎	
	キャンプ場の利用やそば打ち体験を各小学校へ呼びかける。	○								◎	
	そば加工品の試食会を開催する。	○									◎
	宝谷会席で(そば、山菜、きのこ、米、カブ)お客を増やす。		○				◎				
	そばダイエット企画を実施する(1週間滞在型そばメニューで！)。		○				◎				
	通勤に時間がかかるため、地元で働ける場所を作る。		○				◎				
	冬のイベントの開催など、雪を利用した誘客を図る(かまくら祭りなど)。		○					◎		○	
	農地をもっと活用する。		○					◎			
	わき水とそばを使った超おいしい「そば焼酎」を商品化する。		○						◎		
	米、そばのオーナー制。		○						◎		
	米とそばの増収・増益を図る。		○						◎		
	宝谷かぶを伝えていくため、後継者を育成する。		○						◎		
	開発したメニューをもとに料理を作って楽しむイベントを開催する。		○						◎		
	カフェを開店する(美しい景色、そばとフルーツのガレット、銘水コーヒー、宝谷かぶパスタなど)。		○						◎		
	雪を活用して夏場に食品の冷却を行う。		○						◎		
	鉱山跡へのトレッキング、廃墟ツアーを実施する。		○						◎		
	熊肉などを「宝谷ジビエ」としてブランド化する。		○						◎		
	ネット販売をとおして、そばの販路を拡大する。		○							◎	
	冬に坂道を使ったボブスレーイベントを開催する。		○							◎	
	そばの加工所を作り宝谷そばの商品を販売する。		○							◎	
	年間を通してキャンプ場でのイベントを開催する。		○							◎	
	雪を夏の冷房に活用する。		○							◎	
そばやスイーツを食べて、のんびり1日過ごせる施設を整備する。(例:グランピング、ワイナリー)		○								◎	
宝谷の雪を都会に「宝雪」として販売する。				○				◎			
木材の活用(林道の整備)。				○				◎			
担い手・人材に関する提案	子どもからふるさとむらの手伝いをしてもらい、お小遣いをあげる。	○				◎					
	若い人達の地区への協力をもっと得られるようにする。	○					◎				
	除雪協力隊を出身者、若者などで組織する。	○							◎		
	田・畑を管理する担い手組織を育成する。		○				◎				
	人がらの良さ、まとまりある地域にしたい。		○					◎			
宝谷の協力を組織する(転出者による地域行事、除雪協力)。		○							◎		

分類	項目	着手時期			主体・役割・連携(実践の体制)						
		すぐ	2~4年	5年~	住民 個々	組織の 取組み	地域の 取組み	組織間 連携	他地域 連携	行政と の連携	行政
暮らしに関する提案	雪作業を同じ日に実施して協力し合う(反省会をする)。	○					◎				
	雪を活用して強みにかえる。	○					◎				
	若い時から地域みんなで100歳体操をやって、介護が必要ない宝谷にする。	○					◎				
	人生なるようにしかならないので、一人で悩まずに明るく生きる。	○					◎				
	除雪と雪体験を1つのパックにして企画する。	○						◎			
	雪処理などにシルバー人材センターを活用する。	○						◎			
	高齢者の支え合いの仕組みを作って、たくさんの方を視察客を迎える。	○							◎		
	転出しなくとも良いようにする。	○							○	◎	
	雪おろしのボランティアを募集する。	○								◎	
	除雪対策をしっかり行う(行政から力添え)。	○								◎	
	一戸建ての家から共同住宅にして行く。	○								◎	
	住民が「ふるさとむら宝谷」から楠引庁舎に無料で電話ができ、用を足したり、相談できるようにする。	○									◎
	これ以上、世帯数がへらない地域づくりを考える。		○					◎			
	情報を共有して意識の温度差をなくする。		○					◎			
	高齢化の弱い所を地域の団結で強みに変える。		○					◎			
	安定した収入を得られるようにする。		○					◎			
	高齢者からできる仕事で収入を得てもらう。		○					◎		○	
	移住者を増やし世帯数を増加させる。		○							◎	
	空き家を使った民泊を始める。		○							◎	
	少子化を克服し、子どもを増やす。'空き家をなくする。		○								◎
雪おろし、除雪のいらない家づくりへの助成を行う。			○						◎		
移住したくなるような地域づくりを行ってアピールする。			○						◎		
高齢者中心の集合住宅を建てる(介護つき)。			○							◎	
過疎地なので、税金面を優遇して頂きたい。			○							◎	
社会基盤に関する提案	宝谷を情報発信する。	○						◎			
	住民の足を確保する(公共交通、デマンド交通など)。	○									◎
	交通が不便なお年寄りを乗り合いでたすけ合う。		○					◎			
	乗り合いタクシーを運行させ、交通の問題を解消する。		○								◎
	除雪はタイムリーにしてもらうように働きかける。		○								◎
	道路、環境の整備を行う。		○								◎
	山林を生かしたエネルギーの自給自足を実現する。			○				◎			
	公共交通の自動運転化をすすめる。			○							◎
	道路に雪がなければ可能性が広がる。ロードヒーティングとか。			○							◎
他	道路を改良する(坂道の改善)。			○							◎
	ヘリポートを作り、救急患者を空輸搬送する。			○							◎
	宝くじが当たったら皆さんにお裾分けする。	○				◎					

※「主体・役割・連携」の凡例：◎…主な実践体制 ○…その他想定される連携先

11. 検討の経過

○第1回集落ビジョン策定ワークショップ（平成30年7月5日開催）

《目的》視点を広げて宝谷地区を捉える。

《内容》ワークショップ（強み、弱み、活用、不安の4つの視点から地域をみつめる）
地域を取り巻く現状把握（プレイヤー・連携先・関係人口等）



○第2回集落ビジョン策定ワークショップ（平成30年7月12日開催）

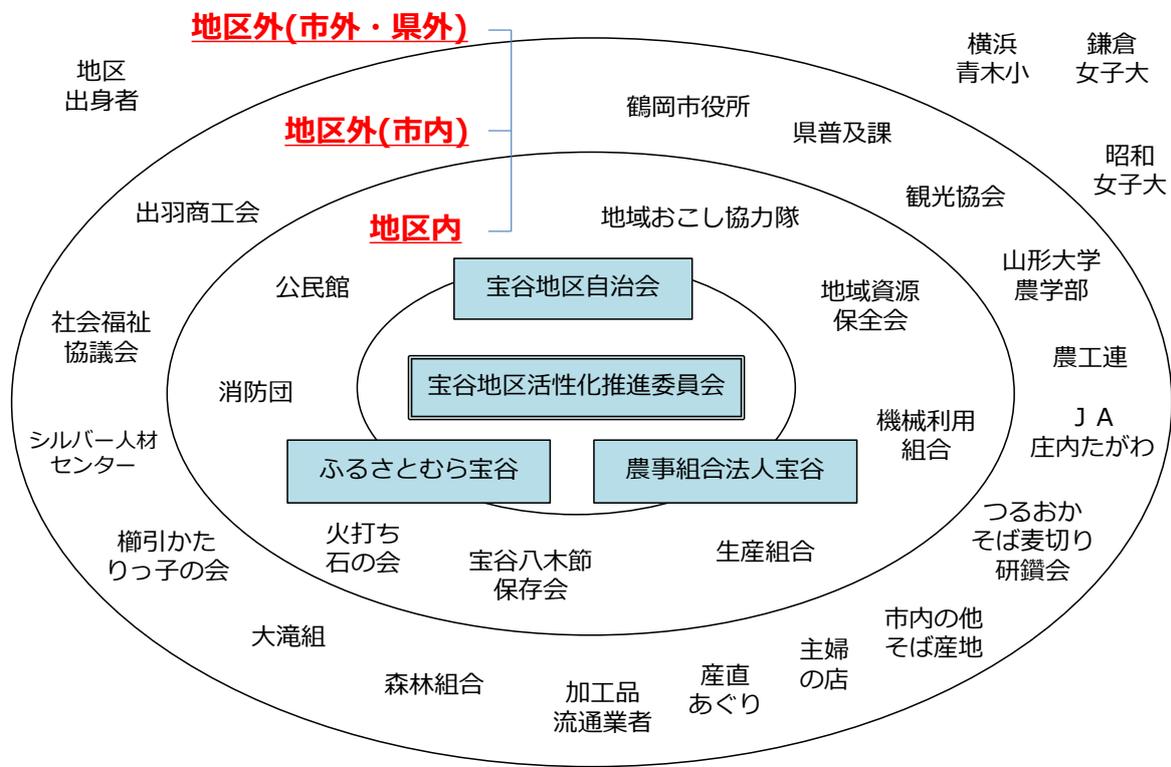
《目的》地域の将来を見据え、課題に対応した解決策を提案する。

《内容》ワークショップ（前回の結果を踏まえ、以下の4つの視点から提案）

- ①強みを活かす（継続する）ための提案
 - ②弱みをなくす（強みに変える）ための提案
 - ③資源を活かす（お金に換える）ための提案
 - ④不安を無くす（払拭する）ための提案
- 提案を分類別・主体別・年次別に整理
→ キャッチフレーズ（テーマ）の検討



12. 地区を取り巻く協働先





策定 宝谷地区活性化推進委員会

森 薫 ・ 遠藤 勉 ・ 畑山 一 ・ 本間 与一 ・ 森 治兵衛
森 甚作 ・ 遠藤 定 ・ 遠藤 晃 ・ 本間 与惣一 ・ 畠山 仁
畑山 久 ・ 畠山 健 ・ 畑山 勇一 ・ 五十嵐 裕 ・ 畑山 学
畠山 吉子 ・ 森 はつみ ・ 森 久子 ・ 畑山 千津